

# 2023年3月期 第3四半期 決算説明資料



フジ・メディア・ホールディングス

2023年2月7日

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値など、将来に関する記述が含まれている場合があります。実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

# 2023年3月期 第3四半期 連結決算



FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

# 今期決算のポイント

## 業績

- 連結業績は、前年同期比で2.5%の減収、営業利益は14.8%の減益
  - ・メディア・コンテンツ事業は増収減益、都市開発・観光事業は減収増益
  - ・経常利益は、前期の持分法投資利益に含まれる負ののれんの発生益の反動減等で減益

## ポイント

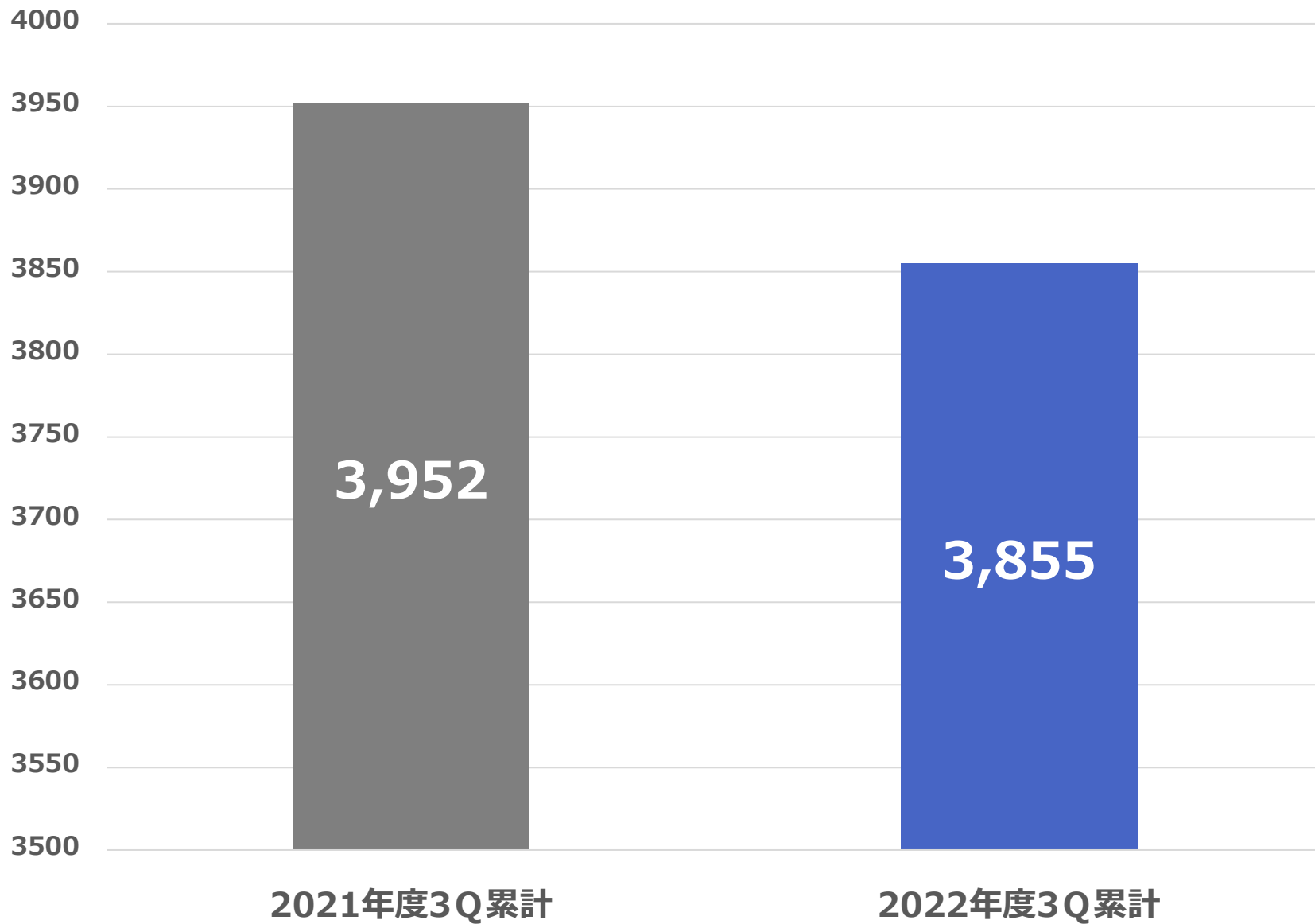
- メディア・コンテンツ事業：増収減益
  - ・フジテレビは減収減益、放送収入はネット単発でW杯サッカーがあったが、五輪の反動等を補えず  
配信広告収入はTVerの再生数など主要指標で年間「AVOD3冠」により、引き続き高い伸び  
映画は劇場公開に加え二次利用も好調、FODの有料配信も会員数100万人を突破し順調な成長  
費用構造の改革による成果も出現
  - ・今期より連結したグレイプのウェブメディアや、広告が好調なクオラスのイベント関連も引き続き順調  
ポニーキャニオンは高利益率の海外番販の反動、DINOS CORPORATIONは巣ごもりの反動で減益
- 都市開発・観光事業：減収増益
  - ・サンケイビルは、前期の大型物件売却の反動もあり減収減益
  - ・グランビスタホテル&リゾートは、2022年10月以降の政府の観光支援などで2Qに続き増収黒字化

## 見込み

- 通期の連結業績予想
  - ・修正無し

# 連結売上高

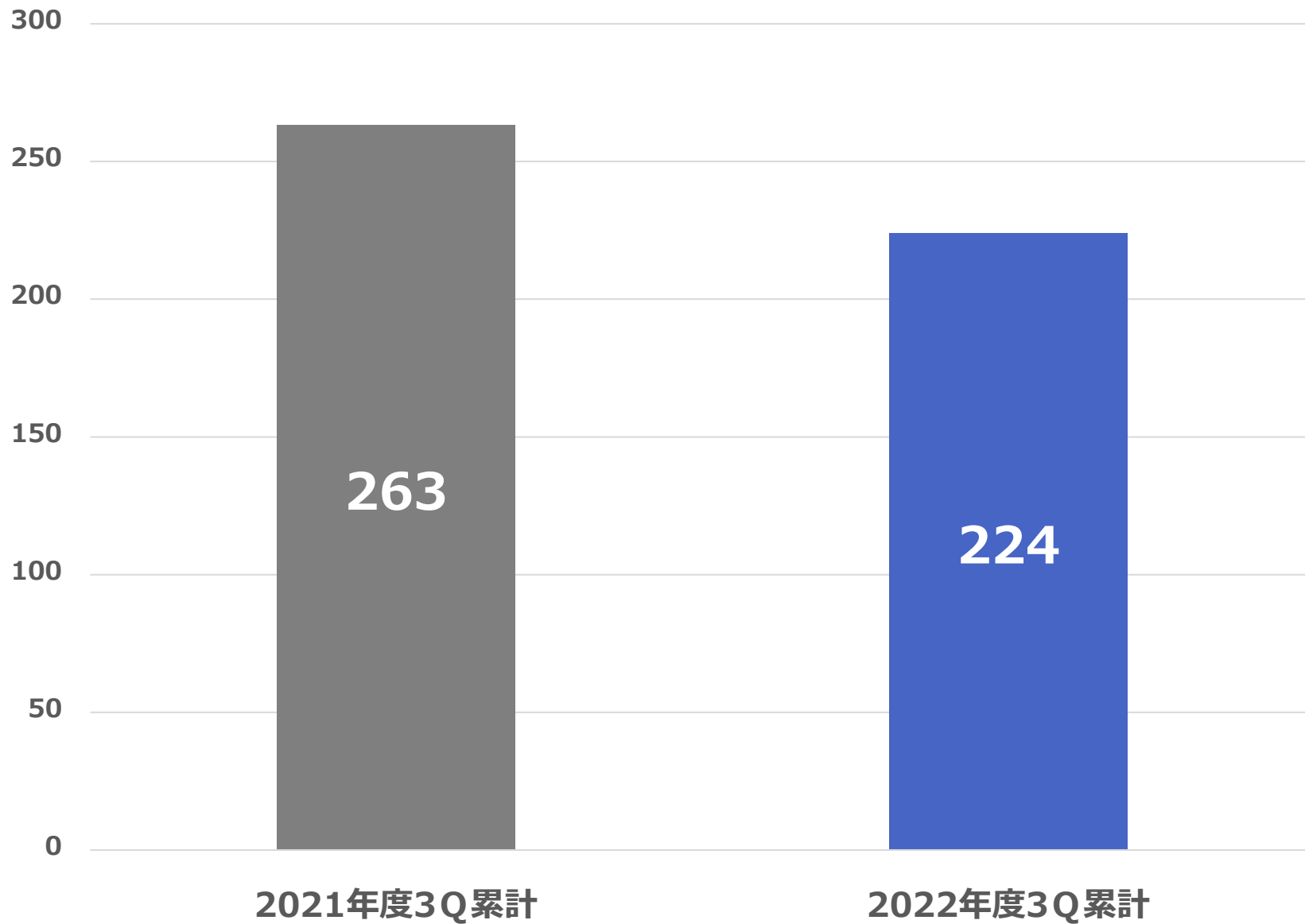
(単位：億円)



**2.5%**  
**減収**

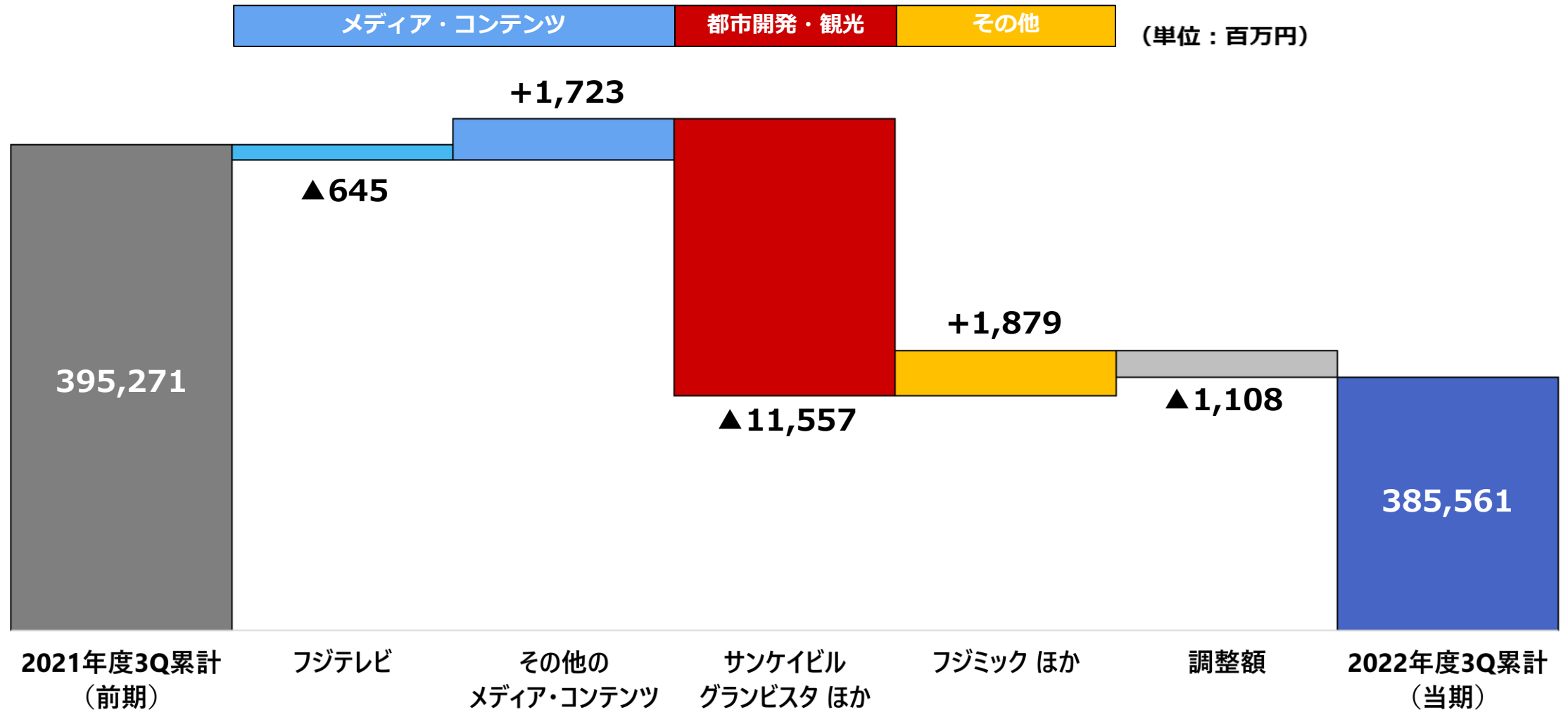
# 連結営業利益

(単位：億円)

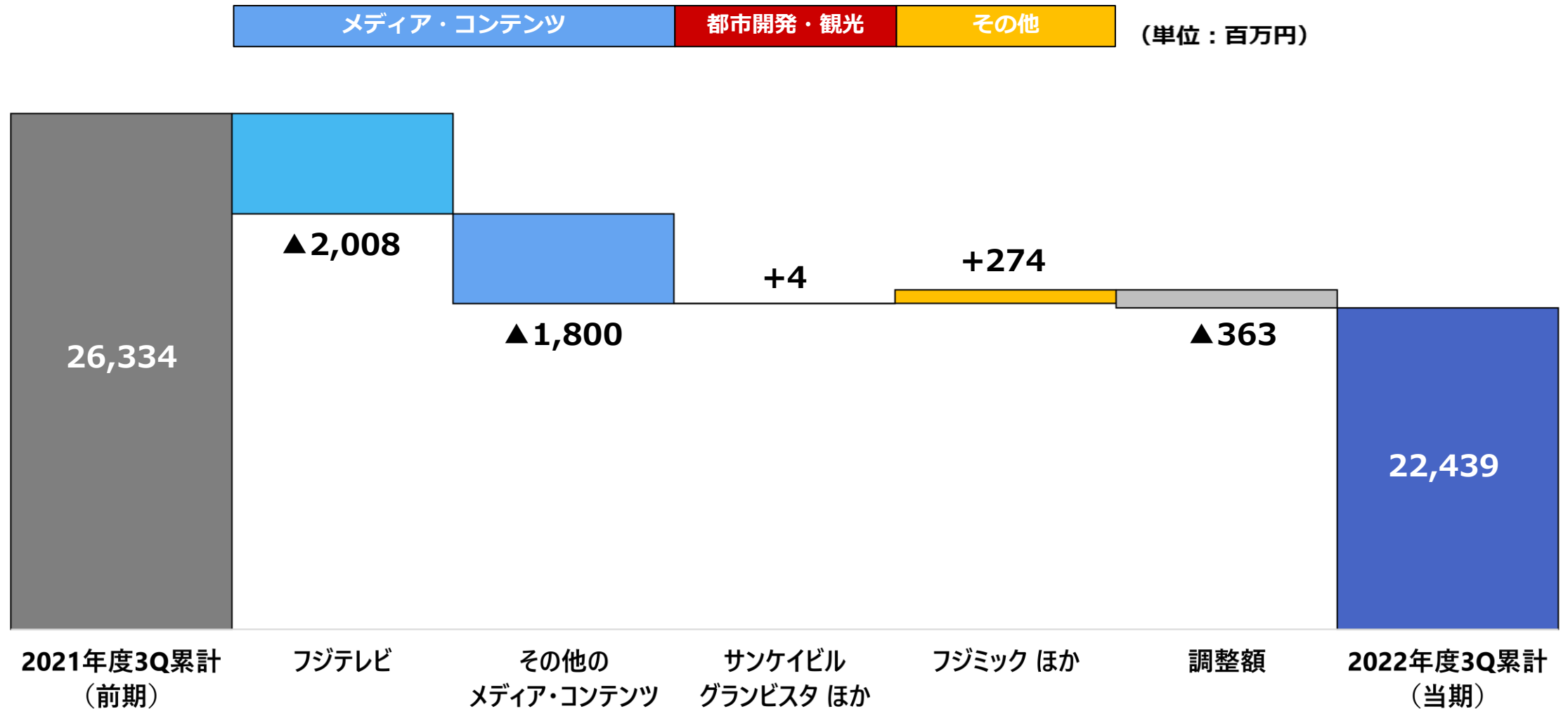


**14.8%**  
**減益**

# セグメント別売上高と増減要因



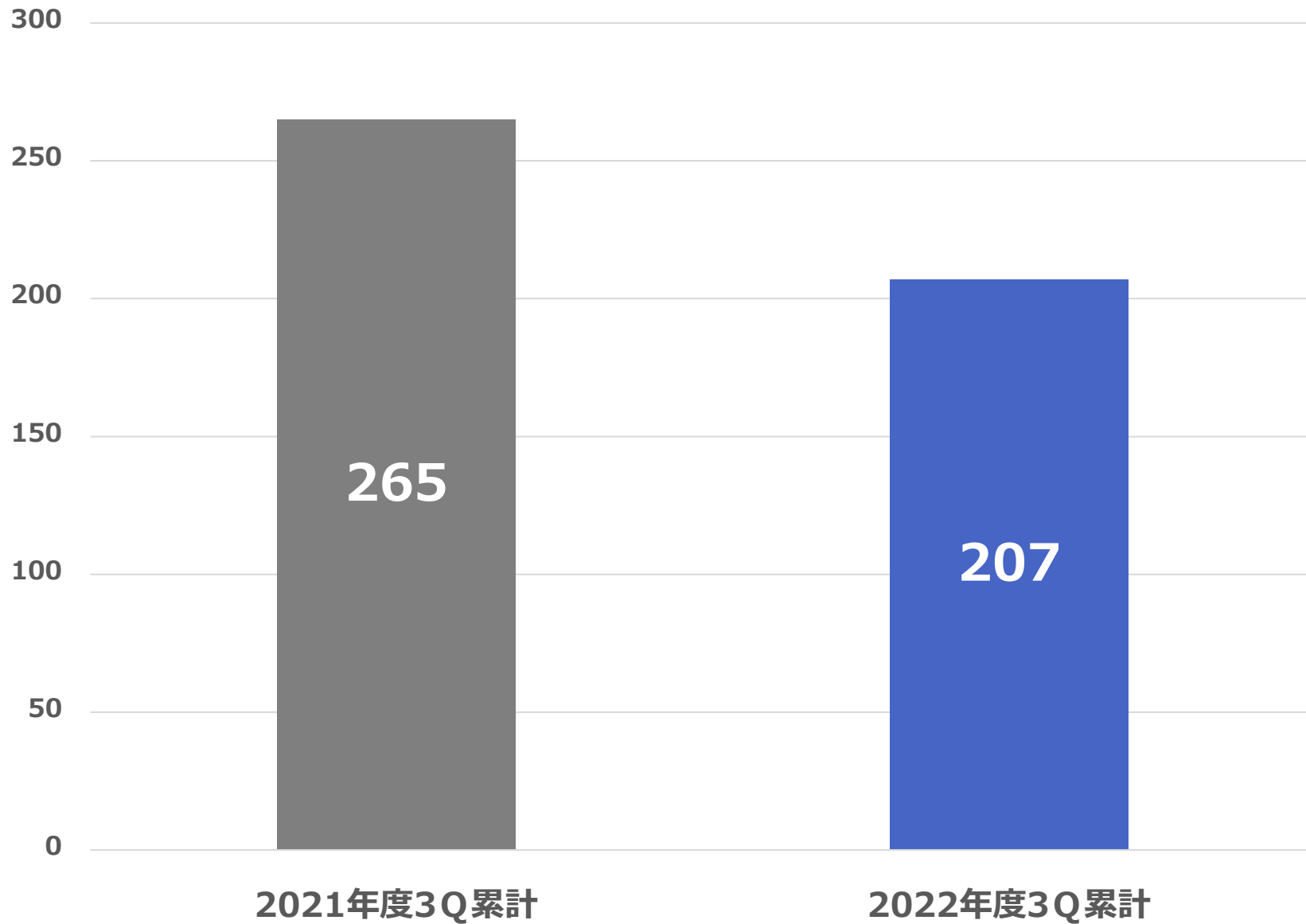
# セグメント別営業利益と増減要因





# 四半期純利益

(単位：億円)



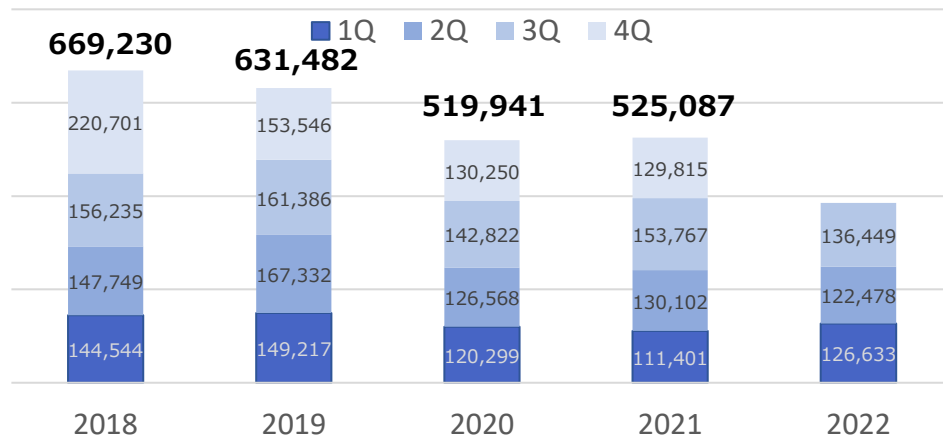
**21.8%**  
**減益**

# 連結決算概要

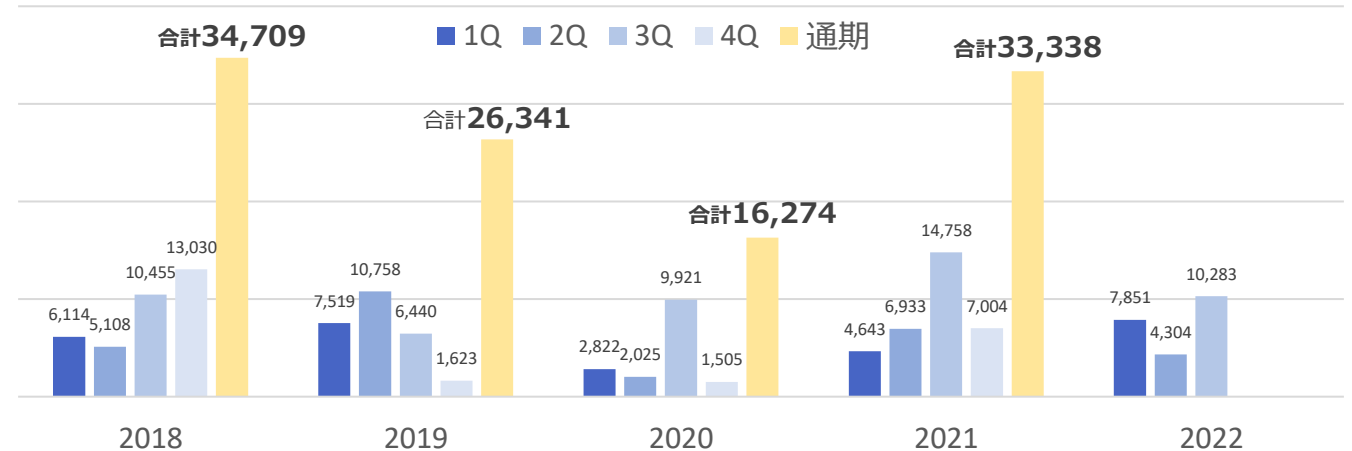
(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減		通期 業績予想 (5/12)	対通期予想 達成率	
売上高	395,271	<b>385,561</b>	▲9,709	▲2.5%	542,200	▲156,638	71.1%
営業利益	26,334	<b>22,439</b>	▲3,895	▲14.8%	35,000	▲12,560	64.1%
経常利益	36,588	<b>28,857</b>	▲7,731	▲21.1%	41,500	▲12,642	69.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26,509	<b>20,732</b>	▲5,777	▲21.8%	27,000	▲6,267	76.8%

売上高推移



営業利益推移



# セグメント別の売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調整額	連結損益 計算上額
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発 観光 事業	そ の 他 業				
売上高	2022年度 3Q累計	310,796	70,261	15,295	396,353	▲10,791	385,561
	2021年度 3Q累計	309,718	81,819	13,416	404,954	▲9,683	395,271
	増減	1,077	▲11,557	1,879	▲8,600	▲1,108	▲9,709
	増減 (%)	0.3%	▲14.1%	14.0%	▲2.1%	—	▲2.5%
営業利益	2022年度 3Q累計	13,219	9,723	777	23,719	▲1,280	22,439
	2021年度 3Q累計	17,028	9,719	503	27,251	▲916	26,334
	増減	▲3,809	4	274	▲3,531	▲363	▲3,895
	増減 (%)	▲22.4%	0.0%	54.5%	▲13.0%	—	▲14.8%

# 営業外収益・費用の主な内容

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
営業外収益				
受取配当金	2,701	<b>3,268</b>	567	21.0%
持分法による 投資利益	6,013	<b>2,488</b>	▲3,525	▲58.6%
その他	3,119	<b>2,069</b>	▲1,050	▲33.7%
<b>営業外収益合計</b>	11,834	<b>7,826</b>	▲4,008	▲33.9%
営業外費用				
支払利息	1,118	<b>1,092</b>	▲25	▲2.3%
その他	461	<b>314</b>	▲146	▲31.8%
<b>営業外費用合計</b>	1,580	<b>1,407</b>	▲172	▲10.9%

# 特別利益・損失の主な内容

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
特別利益				
投資有価証券売却益	26	<b>155</b>	129	485.4%
その他	320	<b>42</b>	▲277	▲86.6%
<b>特別利益合計</b>	347	<b>198</b>	▲148	▲42.8%
特別損失				
固定資産除却損	77	<b>116</b>	38	50.0%
投資有価証券売却損	43	<b>239</b>	196	452.9%
新型コロナウイルス感染症による損失	168	-	▲168	▲100.0%
その他	482	<b>65</b>	▲417	▲86.4%
<b>特別損失合計</b>	771	<b>420</b>	▲351	▲45.5%

# セグメント情報（連結子会社）

セグメント	会社名	会社数
メディア・コンテンツ	フジテレビジョン、ビーエスフジ、ニッポン放送、仙台放送、 フジクリエイティブコーポレーション、共同テレビジョン、ポニーキャニオン、 フジパシフィックミュージック、DINOS CORPORATION、クオラス、扶桑社、NEXTEP、 フジアール、フジ・メディア・テクノロジー、共同エディット、バスク、バンエイト、 ベイシス、フジ・ミュージックパートナーズ、 シンコーミュージック・パブリッシャーズ、グレイプ、イミ二免疫薬粧、 FUJI MUSIC GROUP, INC.、ARC/CONRAD MUSIC LLC	24社
都市開発・観光	サンケイビル、グランビスタホテル&リゾート、 サンケイビルマネジメント、サンケイビルテクノ、サンケイビルウェルケア、 サンケイ会館、サンケイビル・アセットマネジメント、 SKB USA LLC、SKB PORTLAND LLC	9社
その他	フジミック、ニッポン放送プロジェクト、フジキャリアデザイン、 FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	4社
合計		37社

# メディア・ コンテンツ 事業



# メディア・コンテンツ事業の決算のポイント

## フジテレビ

### 減収減益

放送・メディア

- **タイム**：3Qは単発がW杯サッカーで増収  
レギュラーは休止もあり減収  
累計では五輪の反動減で減収
- **スポット**：3Qは行動抑制解除により  
交通・レジャーや衣料などが回復したが  
世界情勢等の影響を受けた出稿手控えや  
広告在庫減少で減収
- **配信**：3QもTVerでの再生数、総視聴時間、  
ユニーク・ブラウザ数で民放1位  
3Qは前期比183.4%と急成長
- **番組費**：累計は今期からのドラマ枠新設や  
3QのW杯サッカー等で増

コンテンツ

- **催物**：3Qは舞台やイベント等が  
コロナによる制限無く回復基調
- **映画**：2Qに続き劇場映画の大ヒットが貢献  
配信等の二次利用やパッケージも好調
- **MD**：3Qは前期のイベント物販の反動減
- **デジタル**：3Q・累計ともFODが好調  
22年11月に有料会員100万人突破  
ニュース配信PV数は17か月連続月間1億超

費用

継続的に進めてきたコスト構造の改革で  
固定的な費用が抑制されスリム化

## ビーエスフジ

### 増収増益

タイムが好調で  
放送収入は増収  
スポーツ中継を強化



## ポニーキャニオン

### 増収減益

配分金、配信、グッズ販売等  
ノンパッケージビジネス好調  
劇場映画配給収入も貢献  
前年比で原価率上昇し減益



©春場ねぎ・  
講談社/映画  
「五分の花嫁」製作委員会

## ニッポン放送

### 減収増益

放送は減収だが、コンテンツ  
販売、通販が貢献、  
イベント関連も好調で増益



## DINOS CORPORATION

### 減収減益

行動抑制解除後の外出増での  
購買機会減、世界情勢による  
消費者マインドへの影響等で  
減収、販促費を積極的に投下  
し減益



食品事業が拡大  
ディノスオリジナル 51周年記念おせち

## FCC

### 減収減益

国内番販、海外番販は減収  
前期のイベントの反動減も  
あり減収減益



Netflix「逃走中 Battle Royal」

## クオラス

### 増収増益

テレビ・ウェブ等の広告売上  
が好調。クリエイティブや  
イベント関連も寄与  
創業来15年で最高益



設立15周年記念ロゴ



# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比
フジテレビジョン	177,131	<b>176,486</b>	▲645 (▲0.4%)	8,282	<b>6,273</b>	▲2,008 (▲24.3%)
ビーエスフジ	10,663	<b>11,702</b>	1,038 (9.7%)	1,570	<b>1,947</b>	377 (24.0%)
ニッポン放送	10,372	<b>10,000</b>	▲371 (▲3.6%)	357	<b>500</b>	143 (40.2%)
フジクリエイティブ コーポレーション	14,178	<b>10,455</b>	▲3,722 (▲26.3%)	1,317	<b>677</b>	▲639 (▲48.6%)
共同テレビジョン	9,031	<b>9,270</b>	239 (2.7%)	81	<b>45</b>	▲35 (▲43.9%)

# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比
ポニーキャニオン	23,400	<b>24,476</b>	1,075 (4.6%)	1,856	<b>473</b>	▲1,382 (▲74.5%)
D I N O S CORPORATION	45,880	<b>45,692</b>	▲188 (▲0.4%)	1,488	<b>303</b>	▲1,185 (▲79.6%)
クオラス ※	11,659	<b>17,074</b>	5,414 (46.4%)	49	<b>751</b>	702 (-)
その他及び セグメント内修正等	7,400	<b>5,638</b>	-	2,025	<b>2,244</b>	-

※ クオラスの広告出稿の実取扱高を含めた売上高は前期27,563百万円、当期35,195百万円です。

# 22年12月期 今期のトピックス —“silent”—

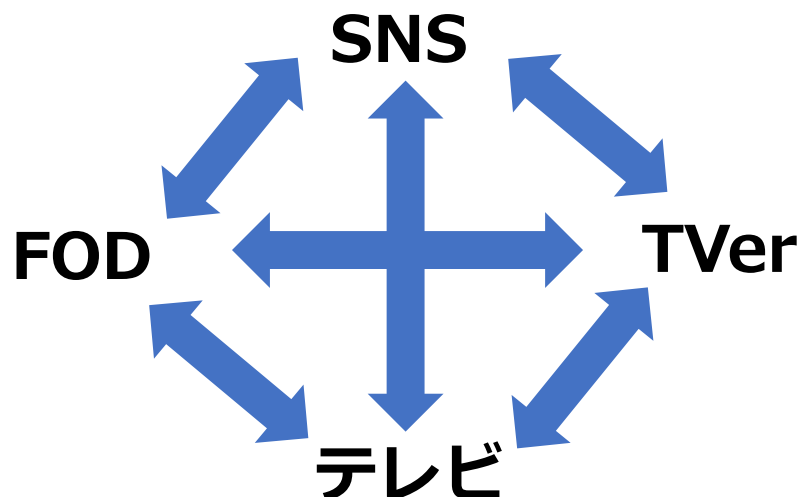


フジテレビ「木曜劇場」で2022年10月から12月に全11回放送されたドラマ—コンテンツをきっかけとした、ユーザーによる新たな視聴体験のつながり—

## ストーリー

フジテレビヤングシナリオ大賞を2021年に受賞した生方美久さんによる、完全オリジナル作品。  
主人公の袖が、本気で愛するも別れることになってしまった高校時代の恋人・想と8年の時を経て偶然の再会をはたす。そこに待ち受けていた現実と向き合いながらも寄り添い、乗り越えていこうとする姿を丁寧に描いていくラブストーリー。大切な人との別れを乗り越え、今を生きようとしている女性と、障がいにより自分と向き合えず別れを選んでしまった青年。音のない世界でもう一度“出会い直す”ことになった二人と、それを取り巻く人々が織り成す、せつなくも温かい物語。

ユーザーによる  
新たな視聴体験のつながり



SNS

リアルタイム視聴しながらのツイート  
全11回中、9回で世界トレンド1位に

TVerほか  
(AVOD)

見逃し配信 累計6,191万再生 (全PF合計)  
TVerにおける民放歴代最高記録樹立  
3Qの配信広告収入 前期比183.4%

テレビ

コアターゲット全11回の平均視聴率4.4%  
回を追うごとに視聴者層拡大

FOD

会員登録を後押し  
2022年11月に会員数100万超

フジテレビ

ポニー  
キャニオン



Official髭男dism  
「Subtitle」

主題歌 Official髭男dism  
「Subtitle」2022年10月配信開始  
史上最速で累計再生数2億回を突破

扶桑社



「silentシナリオブック 完全版」  
未放送シーンを含む完全版脚本  
初版6万部 6刷累計15万部

# フジテレビ



# フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
売上高	177,131	<b>176,486</b>	▲645	▲0.4%
営業利益	8,282	<b>6,273</b>	▲2,008	▲24.3%
経常利益	8,476	<b>6,492</b>	▲1,983	▲23.4%
四半期純利益	5,820	<b>4,367</b>	▲1,453	▲25.0%

# 放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
<b>放送・メディア収入</b>	152,204	<b>146,548</b>	▲5,655	▲3.7%
<b>放送収入</b>	128,886	<b>121,175</b>	▲7,711	▲6.0%
ネットタイム	54,900	<b>52,985</b>	▲1,915	▲3.5%
ローカルタイム	8,193	<b>8,022</b>	▲170	▲2.1%
スポット	65,792	<b>60,167</b>	▲5,625	▲8.6%
<b>その他の放送・メディア収入</b>	23,317	<b>25,373</b>	2,055	8.8%
配信広告 ※1	1,811	<b>3,641</b>	1,830	101.0%
番組販売 ※2	11,584	<b>11,677</b>	92	0.8%
CS放送・その他	9,922	<b>10,054</b>	132	1.3%
<b>放送・メディア原価</b> ※3	102,278	<b>104,137</b>	1,859	1.8%

※1:配信広告は当期よりその他の放送・メディア収入に含まれます。その他の放送・メディア収入の対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※2:番組販売には当期より海外番販は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※3:放送・メディア原価には当期より配信広告原価が含まれ、海外番販原価は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

# スポット収入 業種別動向

(2022年4月～12月) ※管理ベース

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
情報・通信・放送	15.6%	15.0%	▲12.4%
化粧品・トイレタリー	12.9%	10.6%	▲24.8%
外食・各種サービス	8.1%	8.6%	▲2.9%
食品	8.4%	8.4%	▲8.9%
非アルコール飲料	7.0%	6.9%	▲10.1%
金融・保険	5.2%	5.9%	2.9%
医薬品・医療用品	5.3%	5.1%	10.6%
出版・エンタテインメント	4.4%	4.9%	0.1%
事務・精密・光学機器	4.6%	4.7%	▲5.3%

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
交通・レジャー・観光	2.9%	4.5%	40.1%
衣料・身回品・雑貨	3.2%	4.3%	21.7%
自動車・関連品	4.2%	4.0%	▲14.5%
流通・小売業	3.4%	3.8%	3.0%
アルコール飲料	3.3%	3.6%	0.1%
不動産・住宅設備	2.0%	2.4%	9.5%
家電・AV機器	2.7%	2.4%	▲19.3%
電話サービス	3.5%	1.5%	▲60.9%
エネルギー・機械	0.6%	0.8%	22.9%
その他	2.6%	2.7%	▲4.4%

# 番組制作費

(単位：百万円)

	2021年度	2022年度	対前期増減	
第1四半期	16,003	<b>15,742</b>	▲260	▲1.6%
第2四半期	19,003	<b>17,753</b>	▲1,250	▲6.6%
上期	35,007	<b>33,496</b>	▲1,511	▲4.3%
第3四半期	16,368	<b>20,544</b>	4,175	+25.5%
第4四半期	17,645			
下期	34,013			
通期	69,021			

※自社制作番組及び購入番組の直接費



# コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
<b>コンテンツ・ビジネス収入</b>	<b>24,927</b>	<b>29,937</b>	<b>5,009</b>	<b>20.1%</b>
催物事業収入	2,059	3,615	1,555	75.5%
映画事業収入	5,165	8,622	3,456	66.9%
デジタル事業収入 ※1	8,402	8,943	541	6.4%
MD事業収入	2,906	2,506	▲400	▲13.8%
アニメ開発事業収入	1,585	1,681	95	6.0%
ビデオ事業収入	951	849	▲101	▲10.7%
その他の収入 ※2	3,855	3,718	▲137	▲3.6%
<b>コンテンツ・ビジネス原価</b> ※3	<b>20,535</b>	<b>21,910</b>	<b>1,374</b>	<b>6.7%</b>

※1：デジタル事業収入には当期より配信広告は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※2：その他の収入には当期より海外番販収入が含まれます。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※3：コンテンツ・ビジネス原価には当期より海外番販原価が含まれ、配信広告原価は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

# 販管費及び営業外損益概要

(単位：百万円)

	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	対前期増減	
販売費及び 一般管理費	46,035	44,164	▲1,870	▲4.1%
販売費	32,879	31,548	▲1,330	▲4.0%
一般管理費	13,155	12,615	▲540	▲4.1%
<b>営業費用合計</b>	<b>168,849</b>	<b>170,212</b>	<b>1,362</b>	<b>0.8%</b>
<b>営業利益</b>	<b>8,282</b>	<b>6,273</b>	<b>▲2,008</b>	<b>▲24.3%</b>
営業外収益	384	361	▲23	▲6.1%
営業外費用	191	142	▲48	▲25.5%
<b>経常利益</b>	<b>8,476</b>	<b>6,492</b>	<b>▲1,983</b>	<b>▲23.4%</b>

# 都市開発・ 観光事業



# 都市開発・観光事業の決算のポイント

## サンケイビル

### 減収減益

- オフィス・住宅賃貸は引き続き堅調  
2022年11月には「住」「職」「医」「商」を備えた複合型施設「S-LINKS渋谷」が竣工
- 物件売却は概ね計画通りの進捗ながら前年の大型物件の反動減
- 住宅分譲は2022年11月に「ルフォンリブレ駒込六義園」を計画通り販売



S-LINKS渋谷



ルフォンリブレ駒込六義園

## グランビスタホテル&リゾート

### 増収黒字化

- 3Qに入り、全国旅行支援や入国規制の撤廃により「インターゲートホテルズ」を中心に客室稼働が好転
- 全社売上は、3Q単独では2019年度を超える水準に
- 上期を牽引した鴨川シーワールドは、3Qも引き続き好調を持続



## その他

### 増収増益

- サンケイビルテクノによる工事受注増やサンケイビルウェルケアの入居者増など



# 都市開発・観光事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	前期比
サンケイビル	59,503	<b>39,784</b>	▲19,719 (▲33.1%)	11,233	<b>7,486</b>	▲3,746 (▲33.4%)
グランビスタ ホテル&リゾート	12,149	<b>18,667</b>	6,518 (53.6%)	▲2,449	<b>1,001</b>	3,450 (-)
その他及び セグメント内修正等	10,166	<b>11,809</b>	-	935	<b>1,235</b>	-

# 2023年3月期 通期業績予想



# 2023年3月期通期 連結業績予想 (修正なし)

(単位：百万円)

	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期予想	対前期増減	
			増減額	増減率
売上高	525,087	542,200	17,112	3.3%
営業利益	33,338	35,000	1,661	5.0%
経常利益	45,534	41,500	▲4,034	▲8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	24,879	27,000	2,120	8.5%

## 地上波テレビ広告収入の通期見込み (修正なし)

	前期比
ネットタイム	▲3.5%
ローカルタイム	▲4.3%
スポット	▲8.1%
放送収入合計	▲5.9%

2023年3月期通期

セグメント別業績予想  
(修正なし)

(単位：百万円)

	事業セグメント				合計	調整額	連結損益 計算書 計上額
		メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発・観 光業 事業	そ の 他 業			
売上高	2023年3月期 通期予想	<b>426,700</b>	<b>113,100</b>	<b>18,300</b>	<b>558,100</b>	<b>▲15,900</b>	<b>542,200</b>
	2022年3月期 通期	415,036	105,493	17,681	538,211	▲13,124	525,087
	増減率	2.8%	7.2%	3.5%	3.7%	—	3.3%
営業利益	2023年3月期 通期予想	<b>24,500</b>	<b>11,600</b>	<b>600</b>	<b>36,700</b>	<b>▲1,700</b>	<b>35,000</b>
	2022年3月期 通期	23,072	11,153	654	34,880	▲1,541	33,338
	増減率	6.2%	4.0%	▲8.4%	5.2%	—	5.0%



# 設備投資計画と減価償却費

(単位：百万円)

		2023年3月期		2024年3月期 通期 (計画)
		3Q累計 (実績)	通期 (計画)	
設備投資額	連 結	31,869	46,800	46,900
	フジテレビ	3,496	8,000	9,000
	都市開発・観光事業	26,851	34,900	34,300
	フジ・メディアHD	423	1,700	2,000
減価償却費	連 結	13,234	18,900	19,300
	フジテレビ	4,381	6,600	6,900
	都市開発・観光事業	4,881	7,100	7,000
	フジ・メディアHD	1,392	1,900	2,100

# メディア・コンテンツ事業 今後のトピックス

## フジテレビ



- 月曜～金曜 昼のバラエティ新番組「ぽかぽか」 2023年1月スタート  
「みんなの楽しいが集まる場所！」を合言葉に、3時間の生放送
- フジテレビ開局65周年事業  
5年ぶりのシルク・ドゥ・ソレイユ作品「アレグリア-新たなる光-」  
東京（2月8日～6月25日）・大阪（7月14日～10月10日）
- 劇場映画「Dr.コトー診療所」（2022年12月16日公開）  
「イチケイのカラス」（2023年1月13日公開） 「湯道」（2月23日公開）

## DINOS CORPORATION



- 成長期待分野として食品事業を拡大  
2022年12月に食品専用倉庫が稼働  
新カタログ等を投入 年末年始食材やおせち等が好調
- リテンション事業の化粧品ブランド「イミニ」を22年10月に分社化  
ブランド定着と商品訴求のためのプロモーションを積極的に展開中

## ポニー キャニオン



- フジテレビ系木曜劇場「silent」主題歌のOfficial鬍男dism  
「Subtitle」 2022年10月より配信 史上最速で累計再生数2億回を突破
- 出資アニメ「東京リベンジャーズ」の2ndシーズン「聖夜決戦編」  
2023年1月リリース

# 都市開発・観光事業 今後のトピックス

## サンケイビル



- オフィス賃貸は福岡店屋町（2023年2月竣工予定）S-GATE FIT天神南（同6月竣工予定）など堅調なニーズが見込まれるエリアで展開
- 住宅賃貸は浅草、神田、中野、上野等で年度内に竣工予定
- 投資家向け住宅は、居住性が高い人気エリアで開発を促進
- ホテルコンドミニアム・ホテルレジデンス分譲の「BLISSTIA箱根仙石原」が2023年9月に竣工予定
- 物流施設は6施設を開発中。2023年3月に谷田部が竣工予定

## グランビスタホテル & リゾート



- 全国旅行支援や訪日外国人の入国制限撤廃により観光需要が復調 将来に向けて観光産業の高い成長を期待
- 「須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業」の再開発本格化 2024年春のグランドオープンを予定

# サステナビリティ関連の取り組み

気候変動対応  
第64次  
南極地域観測隊に  
ガチャピンが参加



©GACHAMUKKU

- 2022年11月に日本を出発した「第64次南極地域観測隊」にフジテレビ取材班とガチャピンが同行  
観測隊の活動や気候変動について現地から生中継
- コンテンツを通じた気候変動問題への取り組みとしてニッポン放送、ビーエスフジ、扶桑社、グレイプなどグループ各社も連携

ドラマ「Silent」  
配信における  
解説放送



- フジテレビのドラマ「silent」  
TVer・FODで字幕付き配信とともに「解説放送」版を配信
- 今後もフジテレビ制作ドラマは、地上波放送に加え配信でも可能な限り解説放送版を提供し、配信番組のバリアフリー化を推進

※出演者の表情や情景描写など映像の説明を、副音声によるナレーションで伝える放送

取材から生まれた  
新規事業による  
社会的課題の解決

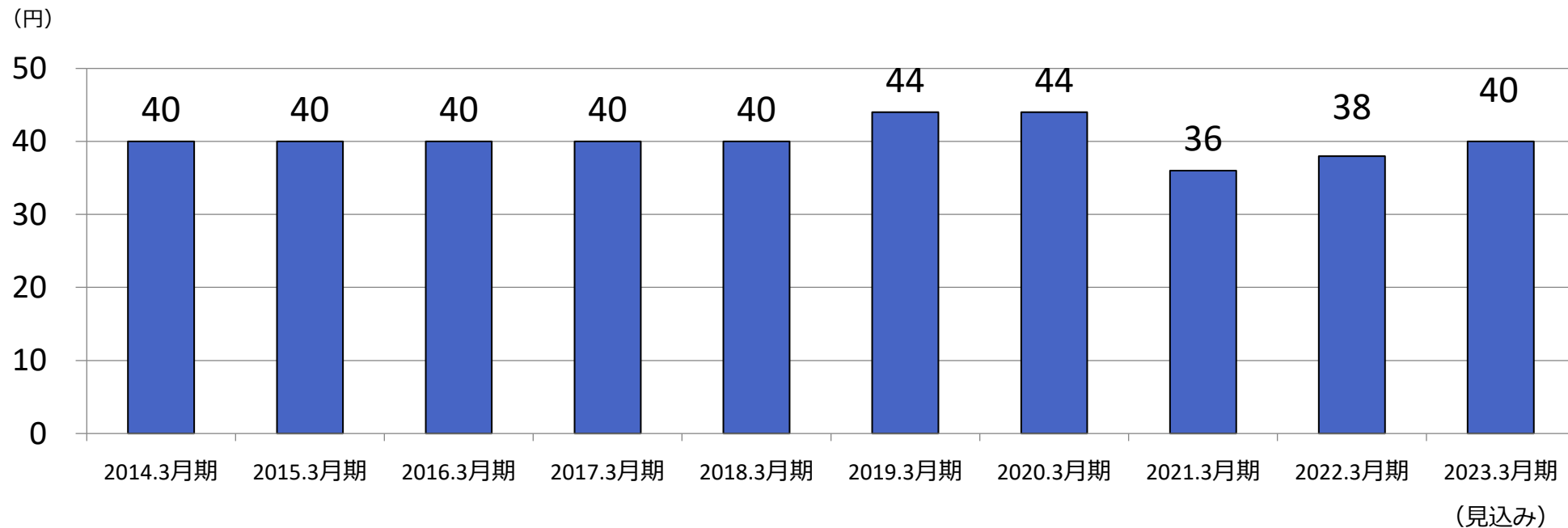


- 仙台放送は、報道番組での取材を契機に東北大学の研究に着目し地域の課題解決に向けた産学連携活動を展開
- 高齢者を含むドライバーの運転技術向上で交通事故の防止を目指す「運転技能向上トレーニング・アプリ」を開発
- 車を必要とする地域の生活を守るため、安全運転の技能を伸ばし誰もが生き生きと暮らせる社会づくりを目指す

# 株主への利益還元

## 2023年3月期 年間配当 40円（変更なし）

連結ベースの配当性向40%を基本に、配当の安定性等を考慮して決定



※単元株制度の導入に伴い、2013年10月1日を効力発生日として1株につき100株の割合で株式分割を行いました。  
過去の配当実績は分割後の株式数で算定した値を記載しています。

※2019年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行10周年及び  
(株)フジテレビジョン開局60周年記念配当4円が含まれております。

# 【補足】 2023年3月期 第3四半期

(2022年10月～12月)

## 実績



FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

# 第3四半期 (2022年10月~12月) 連結決算概要

(単位：百万円)

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前期増減	
売上高	153,767	<b>136,449</b>	▲17,318	▲11.3%
営業利益	14,758	<b>10,283</b>	▲4,475	▲30.3%
経常利益	17,887	<b>12,704</b>	▲5,183	▲29.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,871	<b>8,996</b>	▲3,874	▲30.1%

# セグメント別の売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	事業セグメント			計	調整額	連結損益 計算上額	
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発 事業	その他 事業				
売上高	2022年度3Q	111,600	22,886	5,885	140,372	▲3,922	136,449
	2021年度3Q	111,825	40,668	4,682	157,176	▲3,408	153,767
	増減	▲225	▲17,781	1,202	▲16,804	▲514	▲17,318
	増減 (%)	▲0.2%	▲43.7%	25.7%	▲10.7%	—	▲11.3%
営業利益	2022年度3Q	7,015	3,385	417	10,819	▲535	10,283
	2021年度3Q	10,787	4,000	275	15,063	▲305	14,758
	増減	▲3,771	▲614	141	▲4,244	▲230	▲4,475
	増減 (%)	▲35.0%	▲15.4%	51.4%	▲28.2%	—	▲30.3%



# 第3四半期 (2022年10月~12月) フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前期増減	
			増減額	増減率
売上高	64,016	64,783	767	1.2%
営業利益	7,211	4,310	▲2,900	▲40.2%
経常利益	7,215	4,445	▲2,770	▲38.4%
四半期純利益	5,012	3,030	▲1,982	▲39.5%

# 放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前期増減	
<b>放送・メディア収入</b>	<b>53,985</b>	<b>53,127</b>	<b>▲858</b>	<b>▲1.6%</b>
<b>放送収入</b>	<b>45,675</b>	<b>44,061</b>	<b>▲1,613</b>	<b>▲3.5%</b>
ネットタイム	18,563	20,221	1,658	8.9%
ローカルタイム	3,006	2,807	▲199	▲6.6%
スポット	24,104	21,033	▲3,071	▲12.7%
<b>その他の放送・メディア収入</b>	<b>8,310</b>	<b>9,065</b>	<b>754</b>	<b>9.1%</b>
配信広告 ※1	924	1,694	770	83.4%
番組販売 ※2	4,064	4,128	63	1.6%
CS放送・その他	3,322	3,242	▲79	▲2.4%
<b>放送・メディア原価</b>	<b>33,328</b>	<b>37,545</b>	<b>4,216</b>	<b>12.7%</b>

※1:配信広告は当期よりその他の放送・メディア収入に含まれます。その他の放送・メディア収入の対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※2:番組販売には当期より海外番販は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※3:放送・メディア原価には当期より配信広告原価が含まれ、海外番販原価は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

# コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前期増減	
<b>コンテンツ・ビジネス収入</b>	<b>10,030</b>	<b>11,656</b>	<b>1,625</b>	<b>16.2%</b>
催物事業収入	493	839	346	70.1%
映画事業収入	2,791	3,834	1,042	37.4%
デジタル事業収入 <small>※1</small>	2,933	2,912	▲20	▲0.7%
MD事業収入	1,270	966	▲304	▲23.9%
アニメ開発事業収入	487	1,001	514	105.5%
ビデオ事業収入	240	344	103	43.2%
その他の収入 <small>※2</small>	1,814	1,757	▲56	▲3.1%
<b>コンテンツ・ビジネス原価</b> <small>※3</small>	<b>7,282</b>	<b>7,299</b>	<b>17</b>	<b>0.2%</b>

※1：デジタル事業収入には当期より配信広告は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※2：その他の収入には当期より海外番販収入が含まれます。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

※3：コンテンツ・ビジネス原価には当期より海外番販原価が含まれ、配信広告原価は含まれません。対前期増減の数値は同条件で遡及して算出しています。

# スポット収入 業種別動向

(2022年10月～12月) ※管理ベース

業種	前年 シェア	当期 シェア	対前期増減
情報・通信・放送	16.5%	14.2%	▲24.5%
化粧品・トイレタリー	13.0%	9.9%	▲33.5%
食品	8.2%	8.8%	▲5.4%
外食・各種サービス	8.0%	8.1%	▲11.9%
金融・保険	6.0%	6.3%	▲8.3%
医薬品・医療用品	6.1%	5.7%	▲17.4%
非アルコール飲料	5.7%	5.4%	▲17.6%
交通・レジャー・観光	3.3%	5.2%	39.9%
出版・エンタテインメント	4.5%	5.1%	▲1.0%

業種	前年 シェア	当期 シェア	対前期増減
自動車・関連品	4.6%	4.6%	▲13.6%
事務・精密・光学機器	6.0%	4.5%	▲34.2%
衣料・身回品・雑貨	3.5%	4.5%	11.1%
流通・小売業	3.3%	4.4%	16.0%
家電・AV機器	3.0%	3.6%	4.7%
アルコール飲料	2.1%	2.6%	12.8%
不動産・住宅設備	1.2%	1.8%	33.7%
電話サービス	2.4%	1.7%	▲38.1%
エネルギー・機械	0.7%	0.9%	12.5%
その他	1.7%	2.7%	36.0%